

目的

- ①中期目標の達成、長期における排出量の大幅削減の実現のための対策・施策パッケージ案、及びそのロードマップの作成
- ②同時に、低炭素社会構築による、雇用・新産業創出効果、副次的効果について検討

STEP1 全体検討会:

[本日の議論]

- 全体の枠組みを検討
- ①対策・施策パッケージの叩き台(事務局案)を検討
 - 中期(2020年):タスクフォース会合におけるAIM日本技術モデルの結果
 - 長期(2050年):LCS2050プロジェクト等で検討した2050年の姿
- ②低炭素社会構築による雇用・新産業創出効果について定量的な把握方法を検討
- ①②に関する各WGの検討方針を確認

[1~2月]

STEP2 個別WG(全体検討会含む)

①分野ごとのロードマップの精緻化

- 提示された叩き台を基に分野ごとに再検討
- 主要な対策については、特に詳細かつ具体的なロードマップを作成
- 各対策・施策について、2020年まで及び2050年までの定量化を可能な限り実施

②各対策・施策の実施による雇用・新産業創出効果、副次的効果について掘り下げた検討を実施

前提条件等が明らかであれば、活動量等についても個別WGで独自の想定をおいてもよい
個々の対策は2020年の目標達成、2050年の大幅削減に向けて、大胆に導入するものとする
必ずしも叩き台に縛られる必要はないが、導入量(削減量)が見込みに満たない場合、導入にあたっての具体的な障壁を詳述する

[2~3月]

STEP3 全体検討会+個別WG

①ロードマップのとりまとめと定量化

- 個別WGが見直した対策・施策パッケージに基づき、全体検討会で日本全体の排出量の推移を推計
- 長期目標実現のためのパスという視点から、バックキャストモデルを用いた中期目標の検討を実施
- 結果的に、2020年、2050年の排出量について大幅削減に向けた大きなギャップが存在する場合、そのギャップを埋めるための追加対策・施策を検討

②日本全体での雇用・新産業創出効果についてもとりまとめ